



池内 克史

三次元デジタル化時代の最先端を調べてみませんか？

文化遺産のデジタル化とその利活用

RC-61

1. 代表幹事

池内克史（東京大学 大学院情報学環 教授）

幹事

大石岳史（東京大学 大学院情報学環 特任講師）

影沢政隆（東京大学 生産技術研究所 助教）

連絡先

池内克史研究室秘書

Tel : 03-5452-6242

Fax : 03-5452-6244

e-mail : cvl-staff@cvi.iis.u-tokyo.ac.jp

2. 主旨

二次元あるいは三次元計測装置の高精度化に伴い、従来では不可能であった高精度かつ巨大な実物体のデジタル化が可能となってきた。しかしながら、計測された膨大なデータの処理方法および活用方法についての検討はあまり行われていない。

そこで、本研究会では、特に高精度なデジタル化が要求される文化遺産について、デジタル化の手法と得られたデジタルデータの利用方法・活用方法について考える。具体的な文化遺産の規模としては、奈良大仏のようなものはもちろん、図にあるカンボジア・アンコール遺跡の一つであるバイヨン寺院全体のような縦横およそ100メートル、高さ40メートル以上のものまで対象としている。

さらに、形状の三次元計測のみならず、物体本来の色データ取得手法も研究している。

最後に、こうした三次元データを利用して、従来は二次元ベースであった文化遺産の記録や修復のデータベース化、あるいは新たな考証手法についての研究も行う。

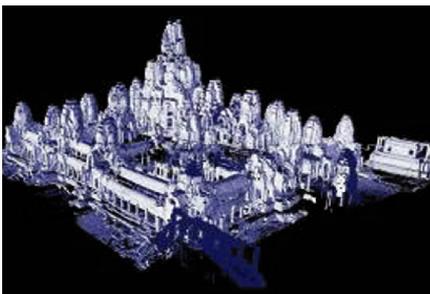
3. その他

年会費 : 20万円

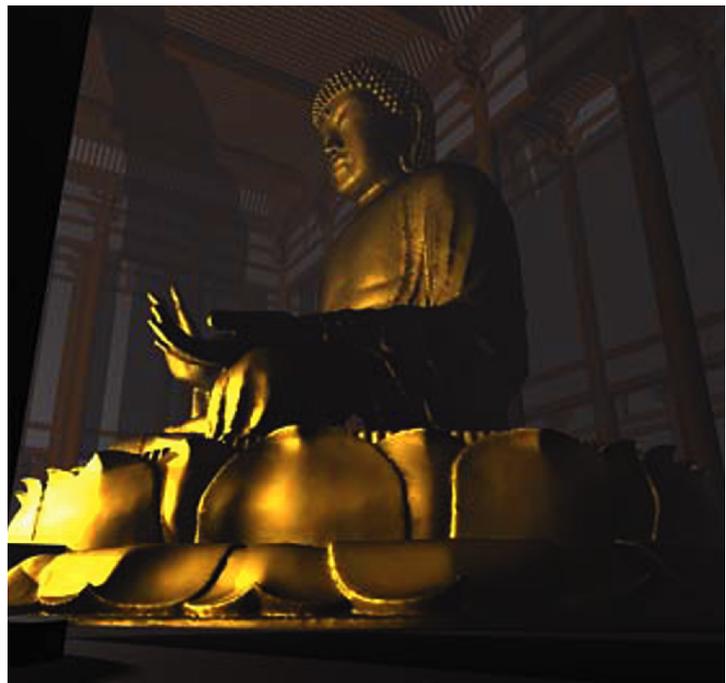
※特別研究会は賛助員を対象にしていますので、未入会の場合は同時入会が必要です。(賛助会費一口10万円)

定員 : 参加社数制限なし 1社毎の参加人数制限なし

運営方法 : 年6回、1回2時間程度の研究会を開催



3次元計測によりデジタル化された文化遺産の例
(上：バイヨン寺院、下：奈良大仏)



デジタル化された奈良大仏に建立当初にあった金箔をはりつけCGで建立当初の姿を再現